

立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」 第 6 期助成事業報告書（認定 NPO 法人マドレボニータ）

1. 振り返りエッセイ

今回マドレボニータでは、コロナ禍以降開催できていなかった団体合宿を2年ぶりに7月22日（金）～23日（土）に開催する予定でした。しかし第7波の影響を受け、急遽、現地組とオンライン組のハイブリッド開催に切り替えて開催しました。

対話の内容としては、初日にまず、2020年12月に新体制になってから団体として・個人としてそれぞれの1年半を振り返り、その上で「これからの1年で私が取り組みたいこと」を共有しました。2日目には10月から始まる団体の次年度の事業計画に着手。しかし、ここで浮き彫りになったのは「個人がやりたいことはそれぞれある中で、団体全体として注力していくことが決められないことが私たちの問題だ」ということでした。そこで、あらためて団体としての大目標を設定し直すところから始めました。

この2日間を振り返ってみると、本当の意味で、自分たちの手で団体を運営していこうとする第一歩になったと思います。ひとりひとりの声を出し合えたことで、キャリアや年数により、見ている視点は異なるということがわかり、それをありのままに率直に伝え合える関係性が生まれたことが、とても心地よく、これこそが団体としてもありたい姿であると再認識できました。またそれができて初めて、団体の進む道を決めていくことに繋がるのだということを体感できたことは非常に大きな収穫でした。その後もどんどん対話が深まって、時に分かり合えずに痛みを感じることもありましたが、それが間違いなく団体力を上げていると胸を張って言えます。

ただ一方で、対話が深まっていく中で新たなモヤモヤも生まれました。それは対話の場に関わる人と関われない人との間での温度差が大きくなってしまったことでした。団体への関わり方の濃淡はさまざま良いと思っています。が、団体への申し訳なさや有用感の欠如が生まれることは決して望んでいません。だからこそ団体としての対話と同時進行で、新たに1on1方式で対話をしていこうと決めました。本音を伝え合うには時に痛みも伴うし、時間もかかります。でもやはり一人一人がかかけがいのない大事な人だからこそ、今何を感じ、どんな希望があり、不安があるのか、そして一緒に歩めることはないのか？を一緒に考えたいのです。そして今年も9月に合宿の計画を立てました。今度こそ完全対面での開催と、大事な仲間たちと温かい時間を過ごせることを楽しみにしています！ありがとうございました。

（マドレボニータ共同代表 山本）

2. 支出報告書

決算会計報告		
種別	内容	収入金額
<input type="checkbox"/> 本助成金	AKBN ファンド想いと向き合う or 数字と向き合う (選択)	200,000
<input type="checkbox"/> その他		
費目	対象・使途・目的・内訳 (具体的な詳細を記入)	支出金額
<input type="checkbox"/> 人件費	合宿のプログラム作成・ホテル/会場手配	20,000
<input type="checkbox"/> 諸謝金	対話のファシリテーション	80,000
<input type="checkbox"/> 賃借料	会場レンタル料	9,291
<input type="checkbox"/> 会議 (飲食) 費		
<input type="checkbox"/> 消耗品費	抗原検査キット	17,292
<input type="checkbox"/> 旅費交通費	参加者交通費	73,135
<input type="checkbox"/> 印刷製本費		
<input type="checkbox"/> 新聞図書費		
<input type="checkbox"/> 研修費		
<input type="checkbox"/> 通信運搬費		
<input type="checkbox"/> その他		
<input type="checkbox"/> 未使用残額		282
合計金額		199,718

3. 助成プログラムへのフィードバック

・おこがましくも「立ち止まり対話するための助成金」というネーミングが秀逸でした！シンプルでありながら、バシッとゴールが明記されていることで、自分たちが求めているものがまさにこれだ！と。ネーミング大事！！と感動しました。

・一次審査と、終了後の振り返りインタビューの2回、オンラインで面談させていただきましたが、終始ジンくんはじめスタッフの皆様が本当にあたたかく、私たちに真摯に向き合い、私たちの今を認め、丁寧に思いを受け取ってくださっている姿に安心でき、私たちも変に背伸びすることなく等身大で向き合うことができたとおもいます。助成される側からすると、審査され、足りないところを問われることが多く緊張することも多いですが、こんなにもあたたかな関係性の元での助成は初めての経験でした。ありがとうございました。